

図9：自然への抵抗としてのエンジニアリングと芸術（2）

to #9.1

#9.9

エンジニアリングにおける主人のディスクールとは、

- ・新しく確立された視点や問題の枠組み（=S1）から、
- ・さまざまな物事（=S2）が
規定され位置づけなおされていく（=S1→S2）過程である。
- ・主体（=\$）は
S1を確立すること（=S1/\$）で不確実性を解消しようとするが、
その他方で新たな不確実性が生まれる（=S2/a）。
- ・この新たな不確実性には、
その視点に立つ限り解消できない部分が含まれる（=\$/a）。

#9.10

エンジニアリングにおける大学のディスクールとは、

- ・既に確立された視点や問題の枠組み（=S1）に根拠を持つ
様々な命題 / 仕組み / 制度など（=S2/S1）を、
- ・S1に変更を加えないまま拡張していくことで
不確実性を解消していこうとする（=S2→a）過程である。
- ・その過程は不徹底に終わるため、
残存する予測誤差が主体（=\$）を発生させる（=a/\$）が、
- ・このディスクールに立つ限り
不確実性の解消は一応作動し続けているため、
主体はS1に変更を敢えて加えようとはしなくなる（=S1//\$）。

#9.11

エンジニアリングにおけるヒステリー者のディスクールとは、

- ・自身が抱える予測誤差あるいは不確実性（=a）の解決（=\$/a）を、
- ・既に確立された視点 / 問題の枠組み / 権威を持つ他者（=S1）により
達成しようとする試みであるが、
- ・S1は有限の知（=S2）しか生みだせず（=S1/S2）、
それが自身の不確実性を解決することはない（=a//S2）ため、
- ・結果はS1に対する失望に終わり、
S1は手段としての信頼を失墜させる。

#9.12

エンジニアリングにおける分析家のディスクールとは、

- ・自身がそれまで依拠していた認識 / 仕組み / 制度など（=S2）に
起因するうまくいかなさ（=a/S2）が眼前に現れる（=a→\$）ことで、
- ・主体はそのままの消滅を目的とした
新たな視点や問題の枠組み（=S1）を生み出すように
思考を強いられる（=\$/S1）。
- ・新しく生み出されたS1は、
それまで依拠されていたS2とは整合性を持たない（=S2//S1）ため、
速やかに主体は主人のディスクールへと移って
世界の再構築が行われる。